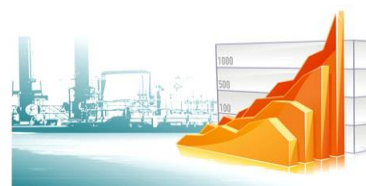


# ぎふ経済レポート



平成29年11月分  
岐阜県商工労働部

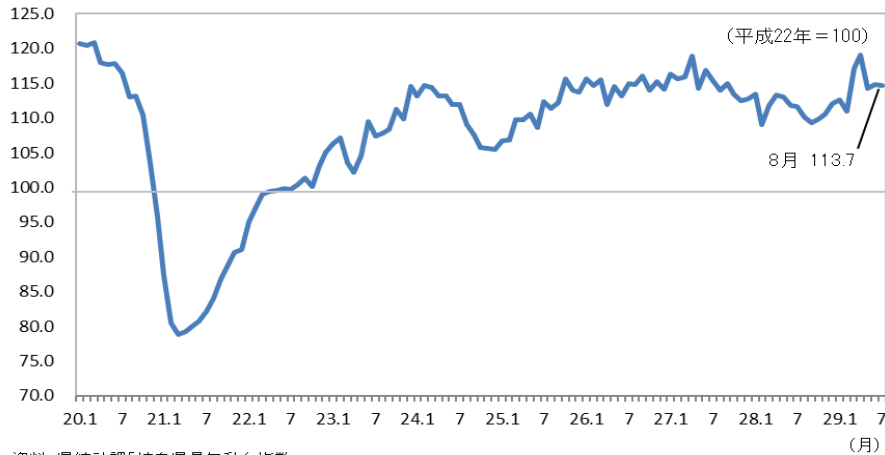
※企業等へのヒアリングは 11月27日～29日を中心に実施し、12月8日に作成。

# 景気動向

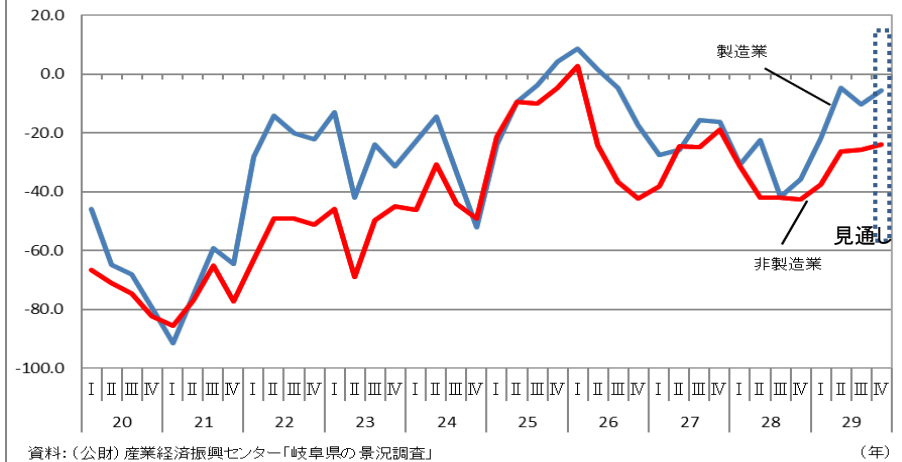
- 8月の景気動向指数(一致指数)は、113.7と前月比1.0ポイント下降した。
- 10月の県内中小企業の景況感は、マイナス24と前月比マイナス8ポイントの悪化となった。

- 平成29年10-12月期の景況感見通しは、製造業で4.5ポイント改善、非製造業も1.9ポイント改善する見通し。
- 採算DIIは、製造業が8.4ポイント、非製造業は2.0ポイント、それぞれ改善する見通し。

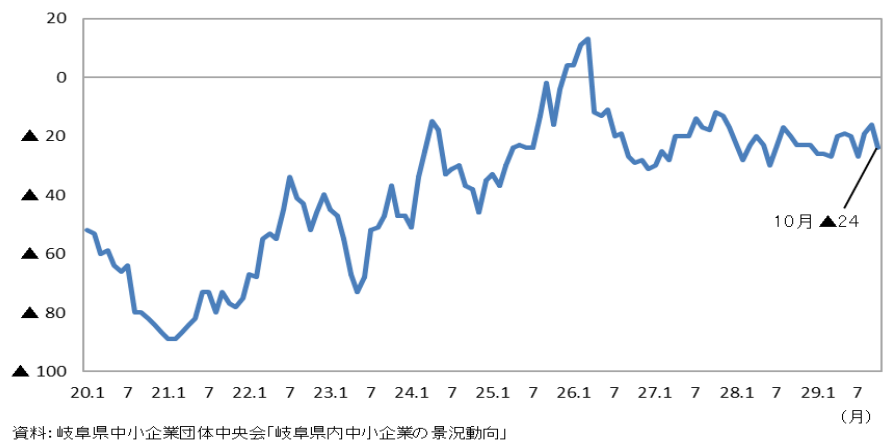
岐阜県景気動向指数(一致指数)の推移



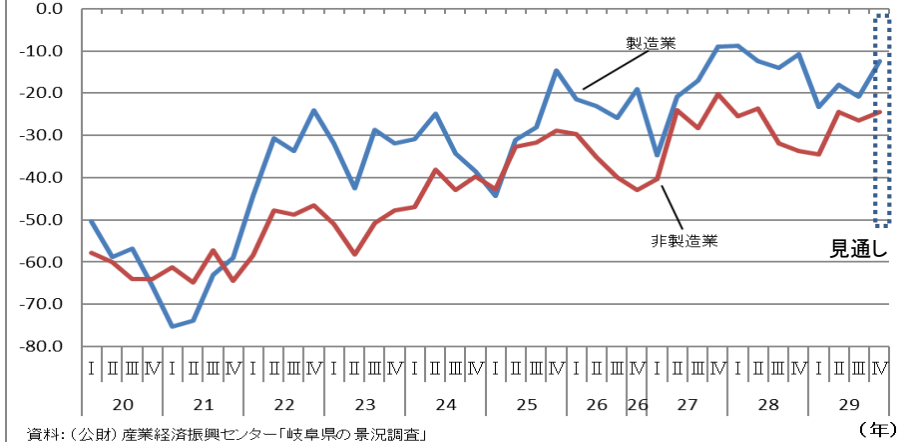
県内企業の景況DI(増加-減少)の推移



県内中小企業の前年同月比景況感DI(好転-悪化)の推移



県内企業の採算DI(増加-減少)の推移

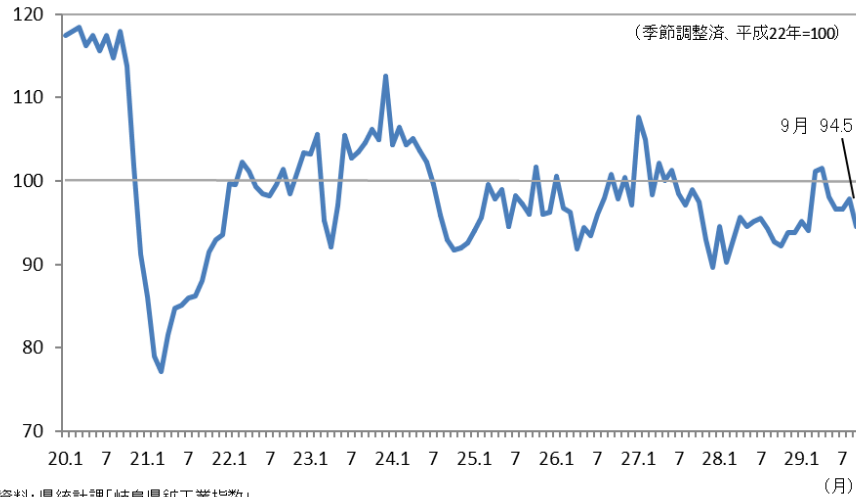


# 製造業

- 9月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、94.5と前月比マイナス3.3ポイント悪化。
- 輸送用機械、化学工業等の低下の影響が大きく、全体の生産指数が低下した。

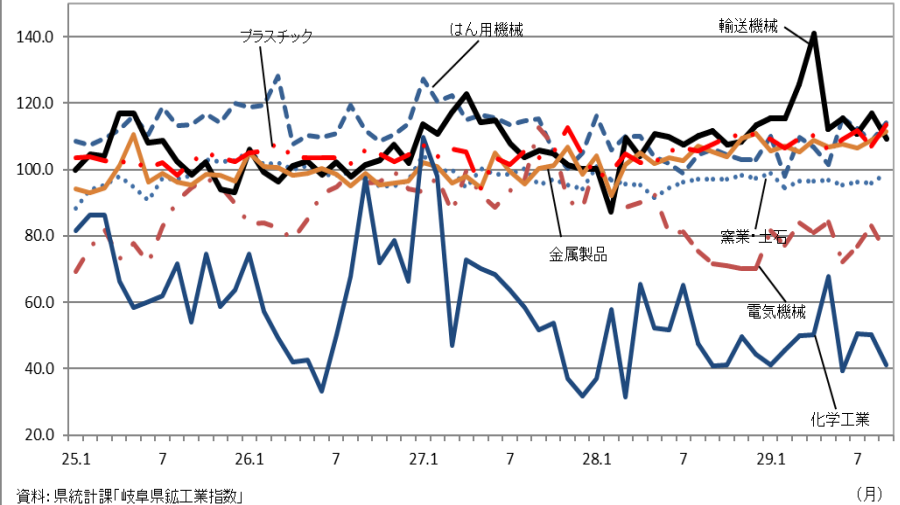
- 9月の主な産業の指数は、前月比でプラスチック(6.5ポイント)、はん用機械(5.6ポイント)などが改善した一方で、化学工業(8.9ポイント)、輸送用機械(7.5ポイント)が悪化した。

鉱工業生産指数の推移



主な産業の鉱工業生産指数

(季節調整済、平成22年=100)



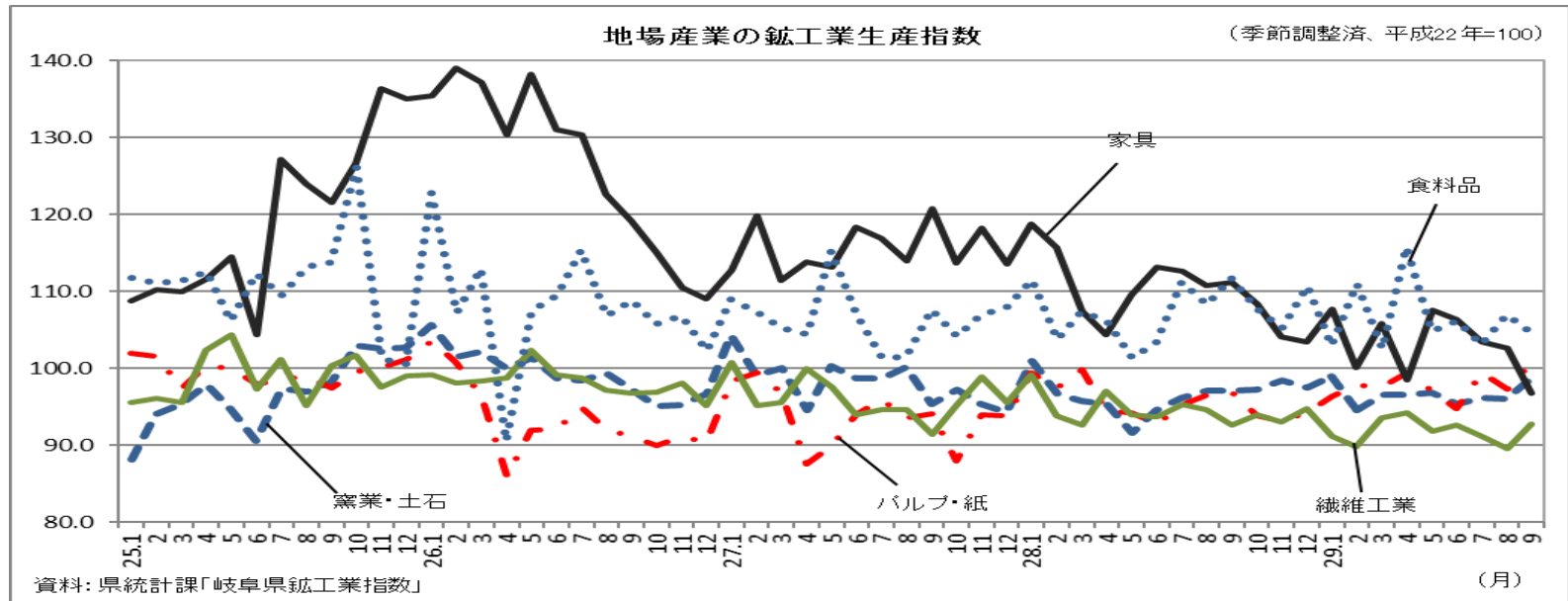
## 現場の動き

(※数字は前年同月比)

- ◆11月の売上は前年同月並み。収益面も原料価格値上げの影響はあるがほぼ同額を予定。(輸送用機械)
- ◆売上、受注とも堅調な状況で大きな変化は無したが、MRJの納入延期は若干影響を受けている。(輸送用機械)
- ◆売上は全体で12.2%増加。自動車関連が5.5%増加、油圧・建機関係が20.7%増加と好調。(輸送用機械)
- ◆受注は引き続き好調で、供給が追い付かない。在庫確保もできず、在庫が減っていつてしまっている。(非鉄金属)
- ◆今期7-9月期の売上は対前年同期比25%増加。受注についても来年春ごろまでは同30%以上増加しており、業績は上向いている。物流機械関連で省人化や無人化の投資意欲が高くなっていることが要因。(生産用機械)
- ◆売上高は8.2%増加。中国向けの建設機械と北米向けの自動車部品が好調推移。(生産用機械)
- ◆売上は20~30%増加。引き続き好調を維持しており、今年度いっぱい続く見込み。(金属製品)
- ◆売上高は20%増加。新しく開発した商品が好調で秋以降も順調に推移すると予想。(プラスチック)

## 製造業-2

- 9月の地場産業(刃物を除く)の鉱工業生産指数は、パルプ・紙が前月比3.5ポイント、繊維工業が3.2ポイント、窯業・土石が2.8ポイントそれぞれ増加。特に、パルプ・紙については平成26年2月以来の水準となる。一方で、家具が5.9ポイント、食料品が2.4ポイントそれぞれ減少した。
- 地場産業は全体的に足踏み感がみられ、厳しい状況が継続しているが、一部に改善もみられる。

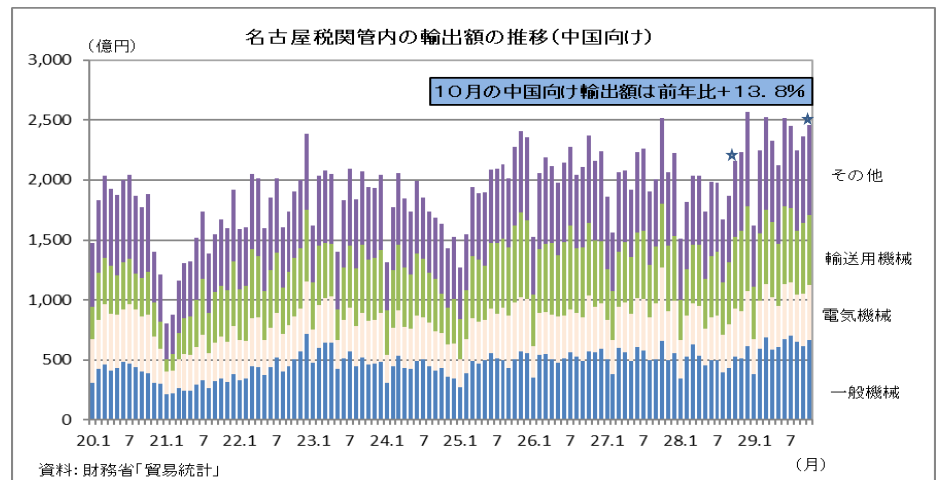
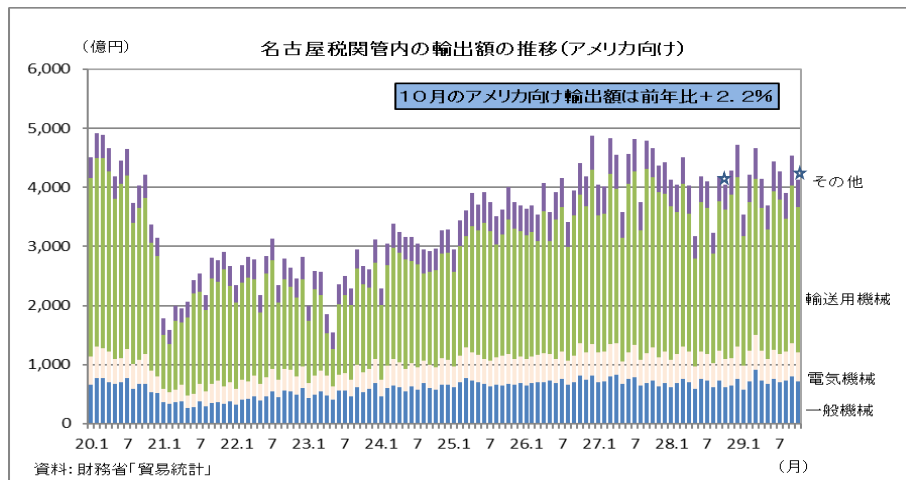
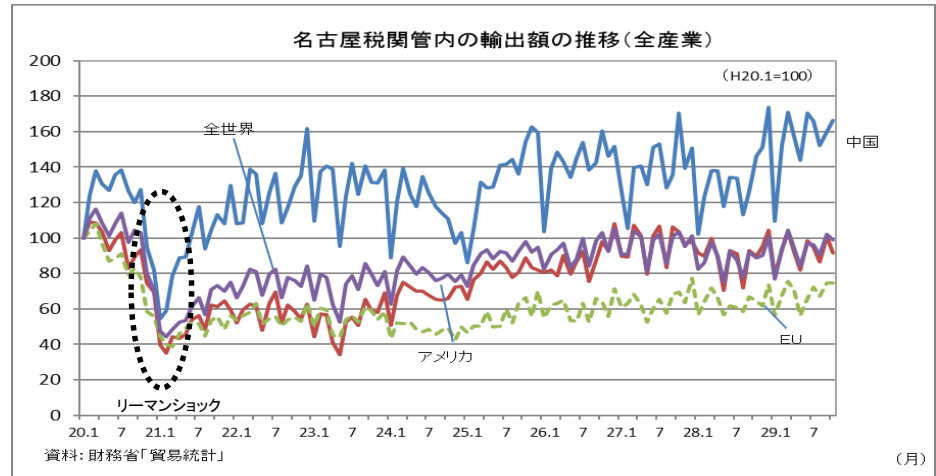
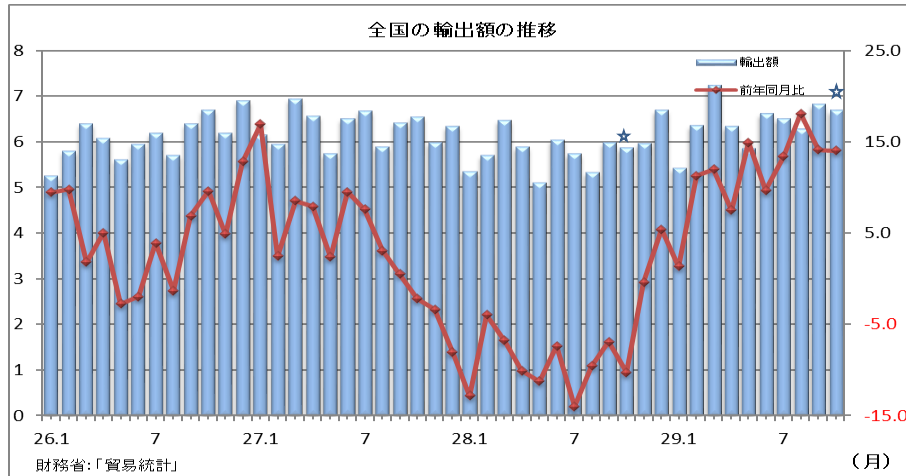


### 現場の動き

- ◆景気は悪い。消費がファッションに向かっていない印象があり、加えて低価格商品が選ばれる傾向が続いているため、利益率が低下している。(アパレル)
- ◆主力製品はマンションの外壁用タイルだが、需要が減っており、昨年より売上が落ちている。(陶磁器)
- ◆売上・受注ともに5%減少。主力商品の一部について外注確保が難しく廃盤になったことが影響。(刃物)
- ◆前年度より売り上げが落ちており、引き続き厳しい状況。(紙業)
- ◆売上・受注は前年比で横ばい。利益は微増だが、消費者ニーズの落ち込みにより見通しは明るくない。(食品)
- ◆第三四半期の売上は昨年よりも良い。業況は上向き。(木工)

# 輸 出(名古屋税関管内)

- 10月の輸出額(全国)は、6兆6,936億円と前年同月比14.0%増加し、11ヶ月連続で増加した。
- 10月の輸出額(名古屋税関内)は、1兆5,749億円で、前年同月比11.6%増加し、9ヶ月連続して前年を上回る。
- うちアメリカ向けは、4,128億円で前年同月比2.2%増加。輸送用機械以外で前年を上回った。
- うち中国向けは、15ヶ月ぶりに輸送用機械が前年を下回ったものの、電気機械と一般機械は2桁増の堅調な伸びを見せており、全体では13.8%増加し、12ヶ月連続で増加となった。





## 為替・原油価格等の動向による影響について

- ◆LPガスの燃料高とアルミ材料の高騰で収益に悪影響がある。(輸送用機械)
- ◆原材料価格は高騰しているが、価格に転嫁できていない。(刃物)
- ◆パルプの値上がりが予想されており、かなりの影響が懸念される。(紙業)
- ◆機械の燃料費(ガス代)と原材料費(米)が上昇しており厳しい。米価高騰により米の菓子製造が衰退していくのではないかと危惧している。(食料品)

## 自動車業界のEV化への取組み・影響について

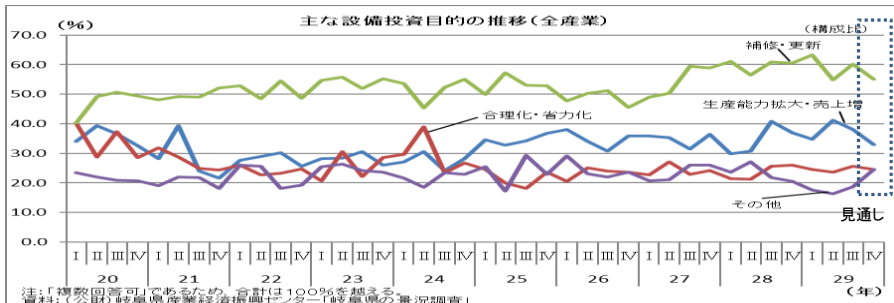
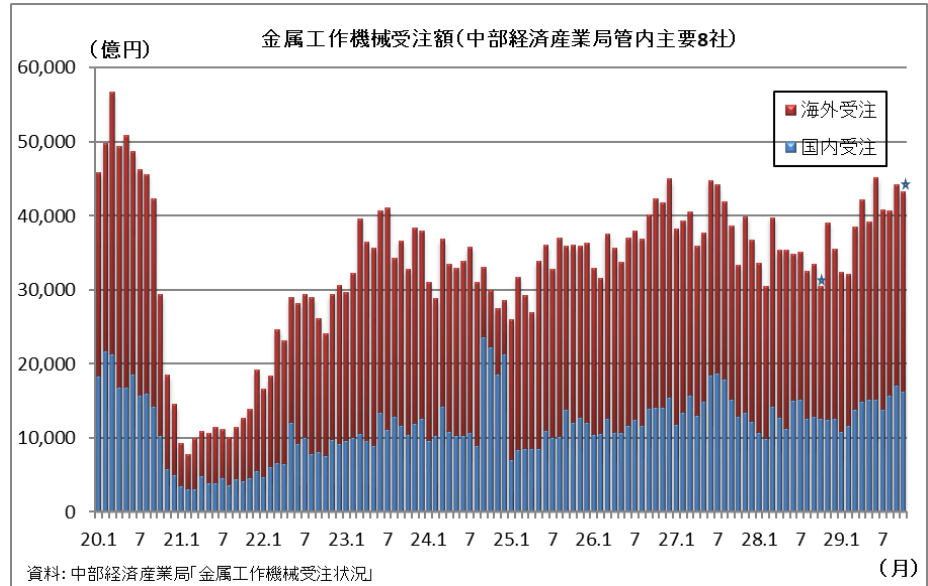
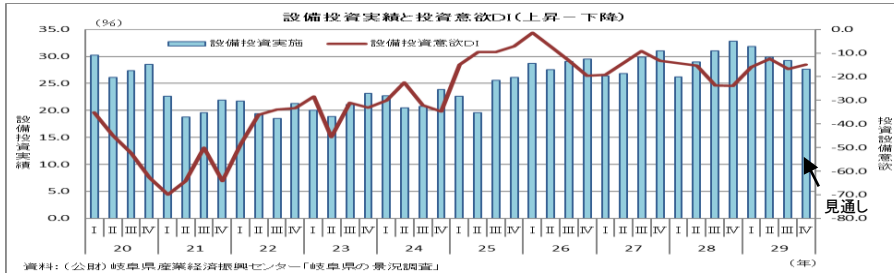
- ◆取引のなかった会社への営業活動により、EV関係のバッテリーケースなど具体的な仕事に結び付きそう。
- ◆基本はEV化の流れだと思うが、現時点で特に影響はなく、欧米ではまだまだガソリン、ハイブリッド車が売れる。
- ◆EV化に関してはエンジン部品に影響があるが、自社の技術を活かせば、新たな受注の確保も可能とみている。
- ◆EVはインフラ整備(発電含む)と充電時間の長さの問題があると考えている。(以上、輸送用機械)
- ◆情報集めをしているが、数年程度は大きな変化はないのではないかと考えている。しかし、エンジンメーカーの大手が、EVで受注が減る穴埋めとして細かい仕事まで参入してくるのではないかとという危機感はある。(非鉄金属)
- ◆EVは半導体需要を増加させる要因。業況の拡大に期待が持てる。(プラスチック)

## 業界トピックス・トレンドについて

- ◆神戸製鋼所のデータ改ざん問題については特に影響はなさそうである。
- ◆手形から現金への切り替えや、金型保管料の負担といった取引慣行の修正が本格化しそうである。
- ◆日産やスバルで発覚した不正検査については、他社のことであるが、自動車業界としては信用失墜につながる大きな問題だと思っている。当社としても製品品質に係る検査体制について改めて検査体制を見直した。(以上、輸送用機械)
- ◆神戸製鋼や日産の問題を受けて、取引先等との会話で品質に関してはよく話題に上がる。(非鉄金属)
- ◆「運賃」と「作業料金」を明確に区別するという運送約款等の改正が今月から実施されるが、まだ実施できていない。中小の運送業者では対応が難しいうえ、荷主の理解もまだまだという感じである。(運輸業)
- ◆ファミレスや小売り他業態が24時間営業の見直しを検討するようになり、状況を注視している。(コンビニ)
- ◆働き方改革で、今年から大晦日の閉店時間を19時から17時へ変更。年一回の定休日も設定。(大型商業施設)

# 設備投資

- 平成29年10－12月期の設備投資見込みは前期比1.6ポイント減少する見通し。設備投資意欲DIは前期より1.9ポイント増加し、投資意欲が改善する見通し。目的別では、「補修・更新」、「合理化・省力化」、「生産能力拡大・売上増」がそれぞれ減少し、省エネルギー等の「その他」が増加。
- 平成29年10月の金属工作機械受注額は、国内受注は自動車向け及び一般工業向けが好調で、前年同月比29.0%増加。海外受注は北米、欧州、アジアが引き続き堅調に推移し同50.9%増加と大幅な伸びを見せている。全体では41.8%増加と引き続き工作機械の受注状況は好調。



## 現場の動き

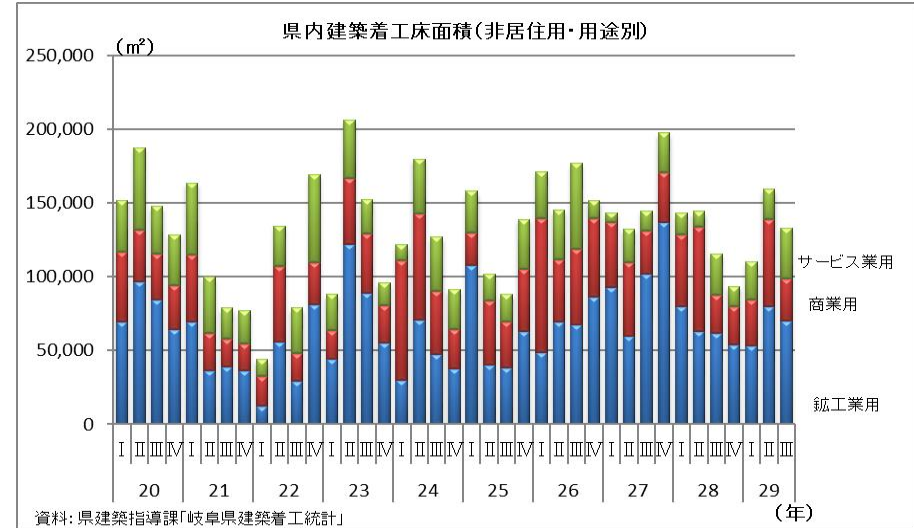
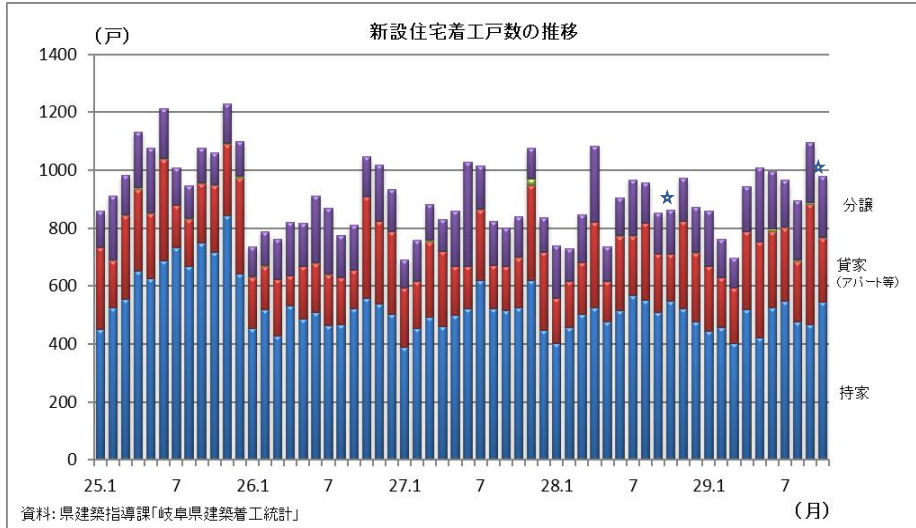
- ◆来年度の設備投資について計画を立てているが、予算を確保しても人手不足により実現できない可能性がある。
- ◆年明けにも大口の新規量産が始まる予定で、生産体制の整備、新規設備の調整を実施。(以上、輸送用機械)
- ◆昨年度に工場を新設したが今年度はそれ以上の設備投資の予定。億単位の規模の見込み。(非鉄金属)
- ◆省人化への取り組みとして、自動化設備やカメラ検査機の導入を検討している。(食品)
- ◆投資は引き続き堅調な様子。(金融)
- ◆設備投資をできる余裕がない。(アパレル)
- ◆今後の需要増加の見通しが立っていないため、今のところ考えていない。(陶磁器)

# 住宅・建築投資

○10月の住宅着工戸数は、前年同月比13.8%増加し、2ヶ月連続で増加した。

○持家は4ヶ月連続で減少、低調に推移しているが、貸家が同39.5%、分譲住宅が同36.4%増加し、着工戸数全体は前年を上回って推移。

○平成29年7-9月期の建築着工床面積は、前年同期比で鉱工業用7.2%、サービス業用5.5%、商業用が同2.4%とそれぞれ増加し、2期連続で増加となっており、商工業面においても建築が活発となっている。



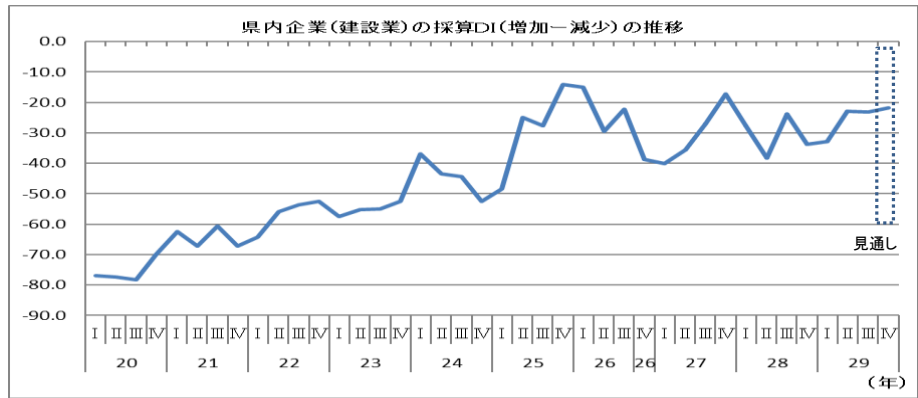
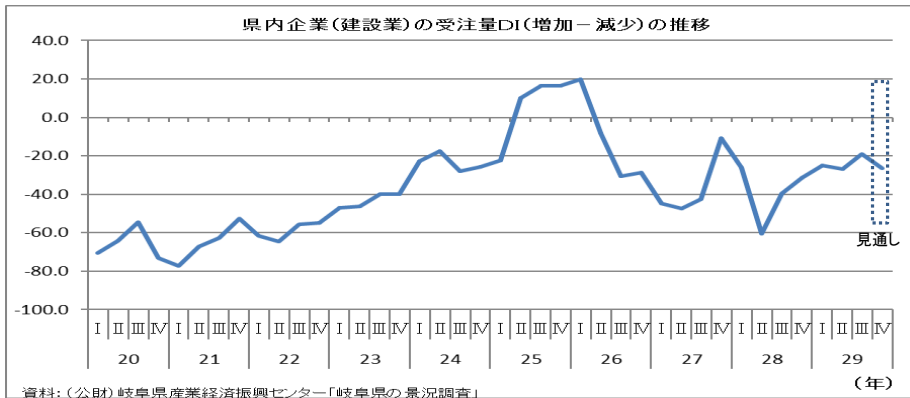
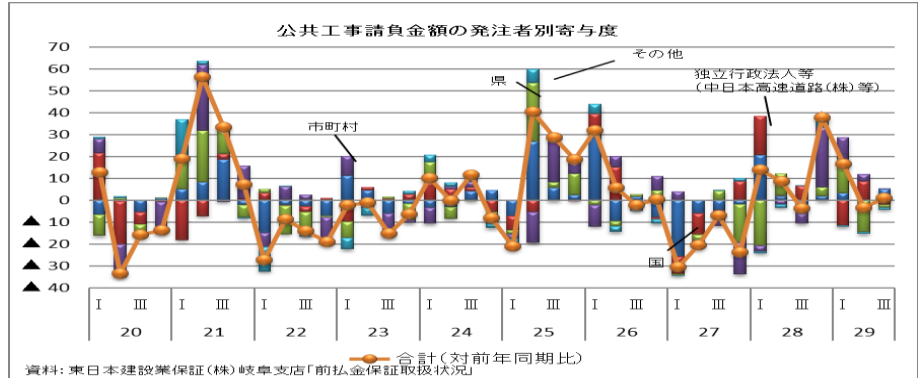
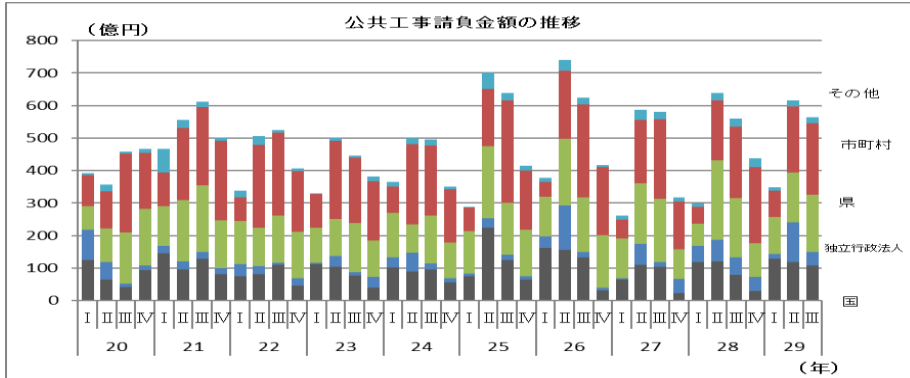
## 現場の動き

- ◆県内、県外とも受注は前年並み。(住宅建設)
- ◆売上は前年同月比15%ほどマイナス。昨年は利益が出ていたが、今年は大きく減少する。相変わらず材がない。4mの太いものはあるが、それは必要ない状況。オリンピックの影響も特にない。(木材加工)
- ◆売上は前年同月比2%増加。フローリング用が好調。年度末に向けて受注が多くなってきており、受けきれない。行政関係や補助金関係が多いが、この時期に集中するため受けきれない。平準化して欲しい。(木材加工)
- ◆秋需の本格的な時期だが、例年ほどの需要がない。原木も足りない。細いものが出てこない。(以上、製材)
- ◆スギの構造材向け並材と合板向けがかなり不足。A材は引き合いは強いが生産量が追い付いていない状況で原木価格はやや上昇。B材は全般的に不足気味で価格は上げざるを得ない。C、D材は横ばい。(森林組合)



# 公共工事

- 平成29年7－9月期の発注者別の公共工事請負金額は、全体が、前年同月比0.9%の微増。国が同36.1%増加し、市町村は横ばい推移となったものの、独立行政法人及び県は減少となった。
- 県内建設業の平成29年10－12期の受注量DIは前期比7.6ポイント悪化する見通し。一方で、同採算DIは1.5ポイント改善する見通し。



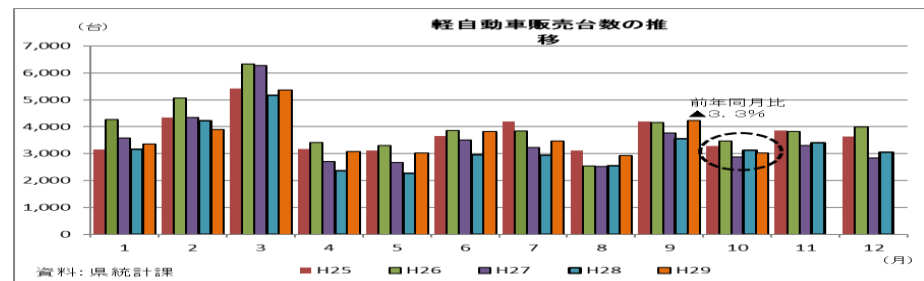
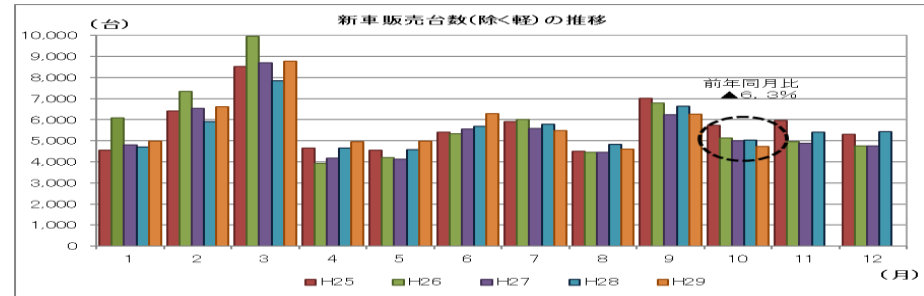
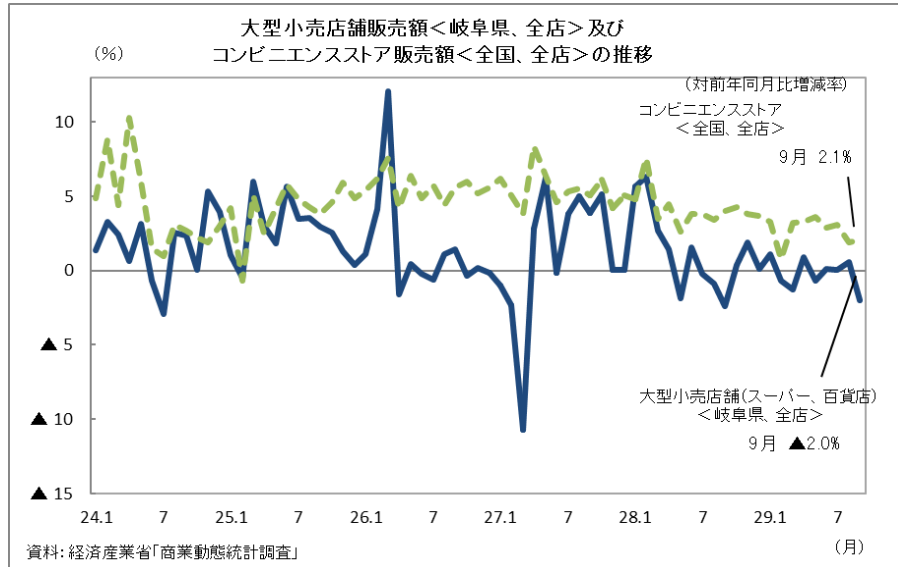
## 現場の動き

- ◆東海環状自動車道関係で例年以上の補正がついている。順次発注されているところ。
- ◆交通誘導員不足が常態化。協力会社内でのやりくりで対応できない状況もあり、工事施工の障害となっている。
- ◆働き方改革の一環で、残業の削減に向けての計画を立て、実践する。達成率によってはインセンティブを与える等の取り組みを実施。(以上、建設業者)

# 個人消費(流通・小売)

- 9月の大型小売店販売額は、前年同月比で2.0%減少し、2ヶ月ぶりにマイナスとなる。
- コンビニエンスストアの9月の販売額は、前年同月比2.1%の増加と、堅調に推移している。
- 9月は天候不順による悪影響がみられる。

- 10月の新車販売(除く軽)は、前年同月比で6.3%減少し、4ヶ月連続で前年を下回った。
- 軽自動車は日産の不祥事の影響を受け、同3.3%減少と8ヶ月ぶりに前年同月を下回った。
- 合算では前年同月比5.2%の減少となる。



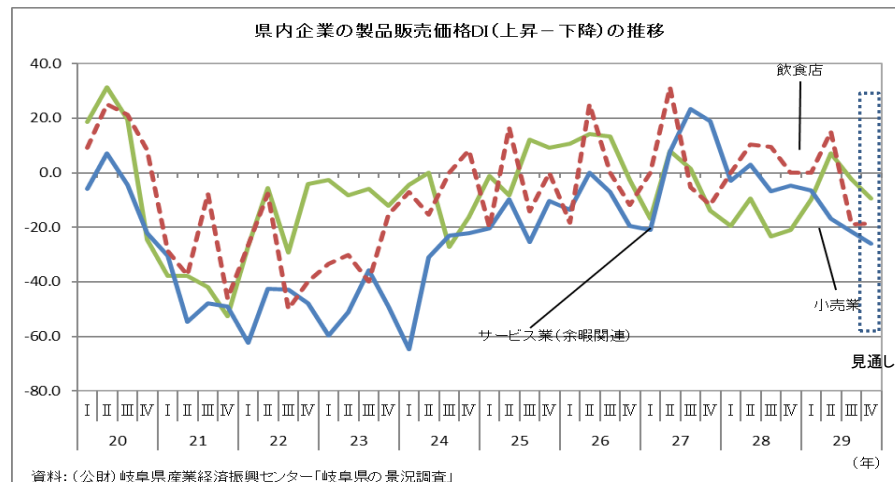
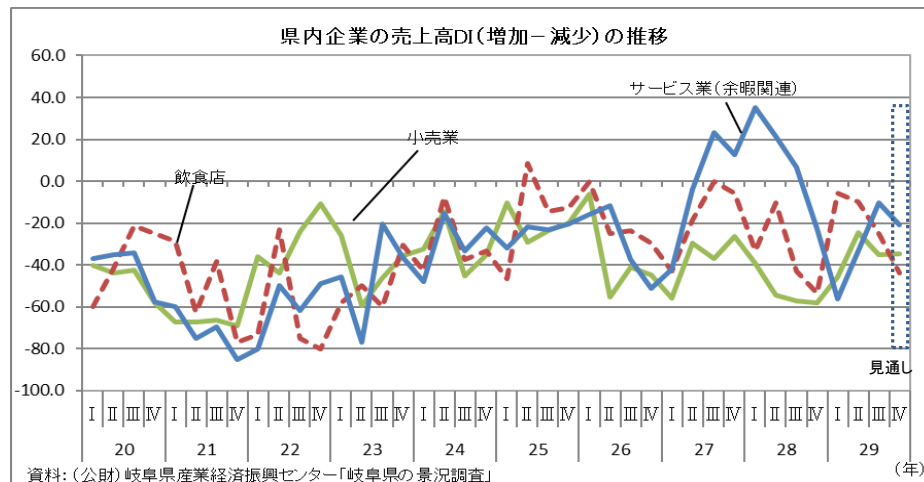
## 現場の動き

- ◆売上は10%増加。家電や衣料の大型店が好調で専門店のみに15%増。新車販売は検査員不正問題の影響か、同20%減少。映画は昨年のビッグヒットの反動減で同20%減少しており、引き続き1月くらいまでは落ち込む見込み。愛知県にオープンした外資系の大型家具店の影響を年末くらいまでは受ける見込み。(岐阜市大型商業施設)
- ◆売上は同3%増加。気温が下がり、防寒具など冬物衣料が良く売れたため、衣料が同5%増加。住居5%増加、食料品3%増加、専門店7%増加とそれぞれ好調。(大垣市大型商業施設)
- ◆11月の売上は同0.3%増加、客数は同2%減少。(コンビニ)
- ◆売上は2%増加。客数5%減少。iphoneXは初動が良く期待している。(家電)

(※数字は前年同月比)

## 個人消費(流通・小売)ー2

- 平成29年10ー12月期の売上高DIは、小売業で前期比0.7ポイント改善する見通しだが、飲食店は同18.8ポイント、サービス業(余暇関連)では同10.3ポイントそれぞれ悪化する見通し。
- 同じく販売価格DIについては飲食店で横ばい推移となるも、小売業で7.0ポイント、サービス業で4.4ポイントそれぞれ悪化する見通しで、個人消費については厳しい見通しとなっている。



### 現場の動き

(※数字は前年同月比)

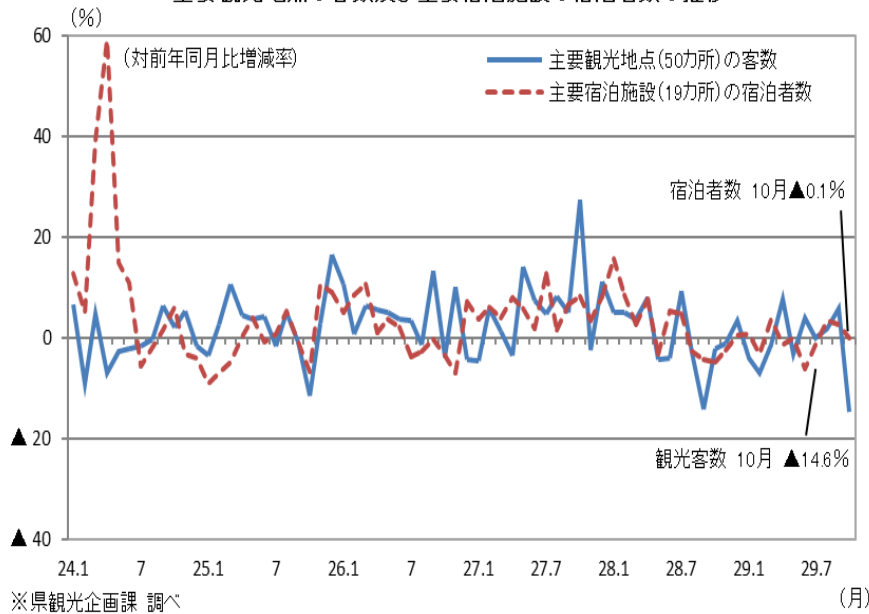
- ◆入館者数は前年同月を上回る見込み。館全体売上については2ヶ月ぶりに前年同月を上回る見込み。
- ◆サービス、飲食、物販、ファッションは前年を上回る見込み。(以上、アクティブG)
- ◆和菓子店の売上は5%減少。アクセサリーは長良川おんぱくの影響で10%増加。飲食店は2%減少。
- ◆11月は全体的な人通りは例年と変わらない。(以上、柳ヶ瀬商店街)
- ◆元気ハツラツ市は好天気とロボットの展示で過去最高の人出。11月25日からイルミネーションが点灯。
- ◆婦人服店売上は前年並み。主力商品に使う、いちごの入荷の遅れで和菓子店は同5%減。(以上、大垣市商店街)
- ◆11月25日までまちゼミを開催。全40講座で人気は高い。陶器・お土産店の売上は10%減少。
- ◆衣料品店は13%増加。様々な決済手段に対応する端末機の必要性を感じている。(以上、高山市商店街)
- ◆酒類販売は例年並み。陶芸作家と干支の置物を作成し、店頭販売を始めたが、好調でお酒の売上にも寄与。
- ◆子供服店の売上は2%減少。少子化や大型店の影響で子供服の専門店が厳しい。(以上、多治見市商店街)

# 観光

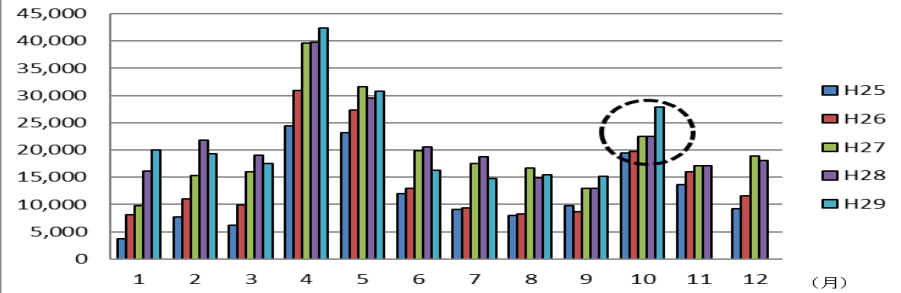
- 主要観光地における10月の観光客数は、前年同月比14.6%減少し、3ヶ月ぶりに前年同月を下回った。
- 同様に、主要宿泊施設における宿泊者数は、同0.1%減少、3ヶ月ぶりに前年を下回った。

- 10月の主要観光施設における外国人宿泊者数は、前年同月比で24.1%の増加となり、と3ヶ月連続で前年同月を大幅に上回った。

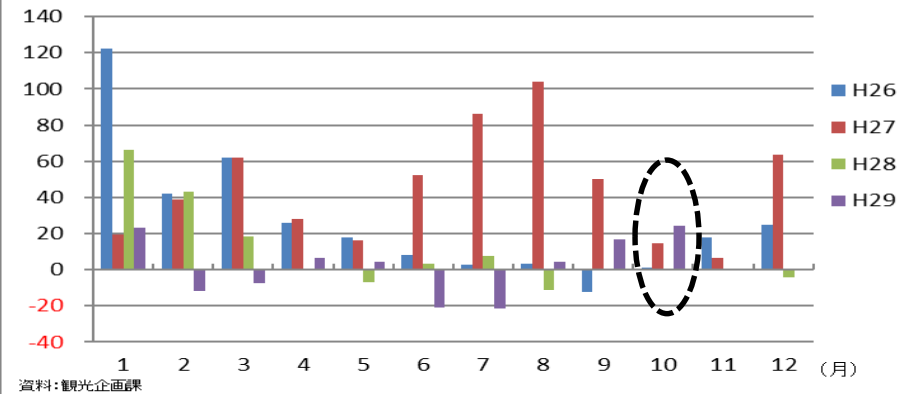
主要観光地点の客数及び主要宿泊施設の宿泊者数の推移



主要宿泊施設 外国人宿泊客数(対前年比推移)



主要宿泊施設 外国人宿泊客増減率(対前年比推移)

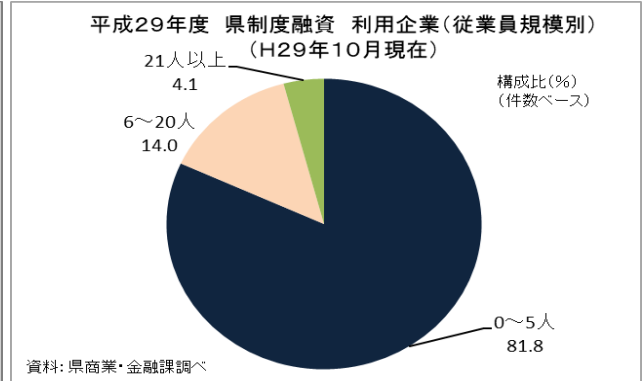
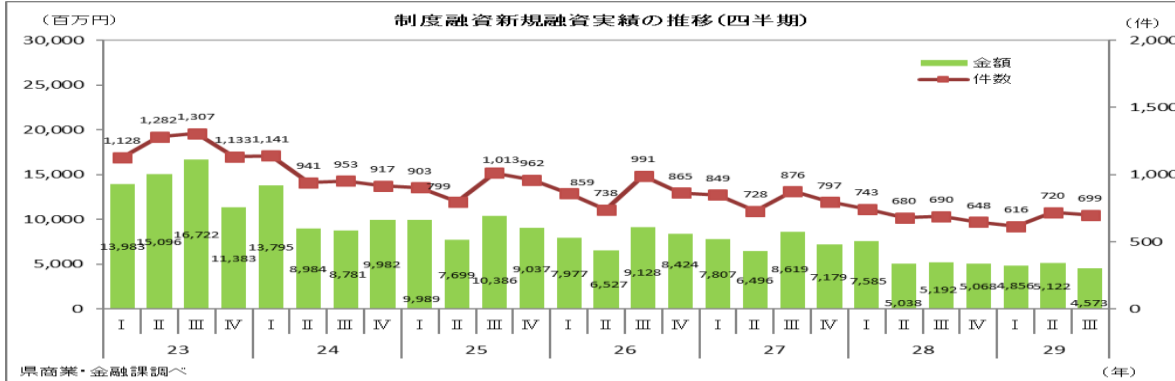
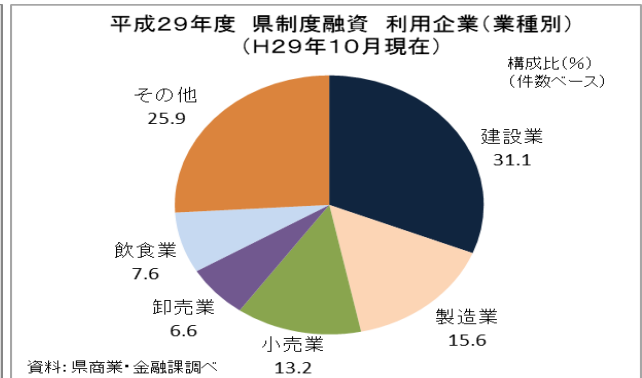
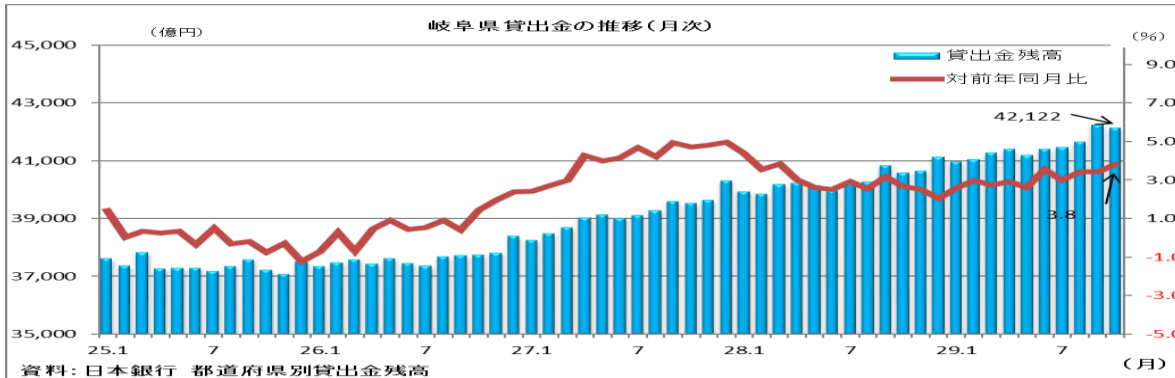


## 現場の動き

- ◆インターネット予約が、10月は前年比80%と低調だが、11月は既に前年比99%と大変好調。
- ◆スポーツ団体の利用が多く稼働率が上がった。(以上、岐阜市内の宿泊施設)
- ◆11、12月は例年インバウンドのお客さまが少ない。(大垣市内の宿泊施設)
- ◆当日の予約が目立つ。(美濃加茂市内の宿泊施設)
- ◆引き続き欧米と香港からのお客さまが好調である。(高山市内の宿泊施設)
- ◆インターネット予約が伸び悩んでいる。(高山市内の複数宿泊施設)
- ◆特に接客部門の人材不足が慢性化しており、派遣スタッフに頼らざるを得ない状況。(下呂市内の宿泊施設)

# 資金繰り

- 10月の岐阜県貸出金残高は、4兆2,122億円で前年同月比3.8%増と引き続き高い伸びを続ける。
- 10月の制度融資実績は、金額が1,421百万円で同9.6%増加。件数は200件で同18.3%増加。
- 平成29年7-9月期の同実績は、金額が前年同期比11.9%減少した一方、件数は同1.3%増加。
- 業種別では建設業が31.1%、製造業が15.6%、小売業が13.2%と3業種で約6割を占める。



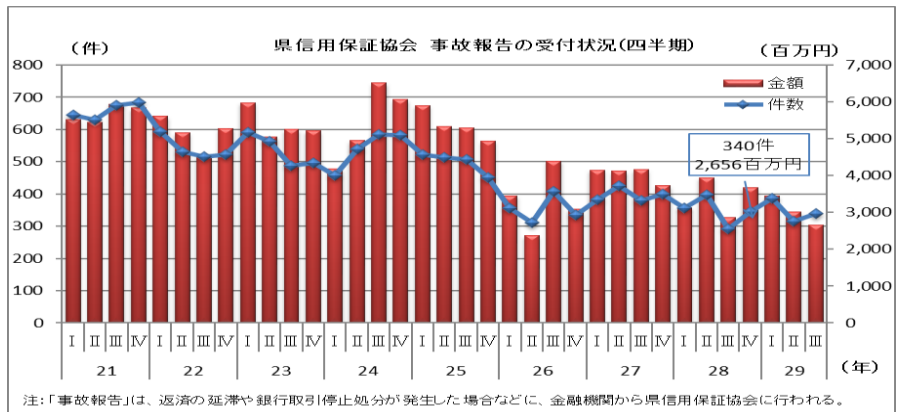
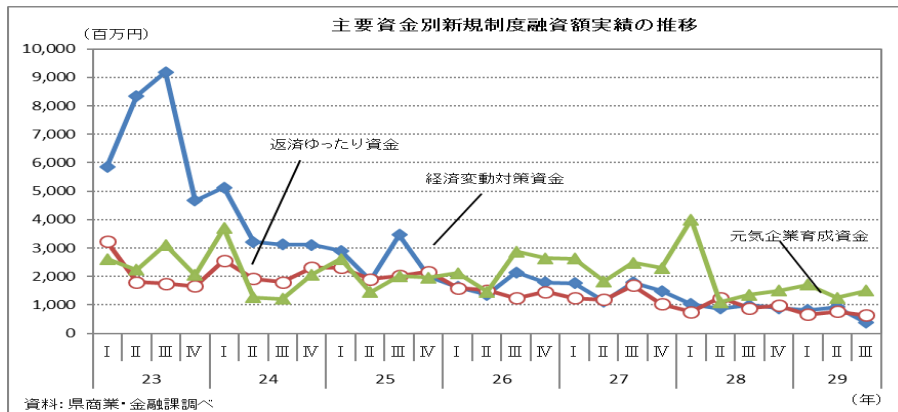
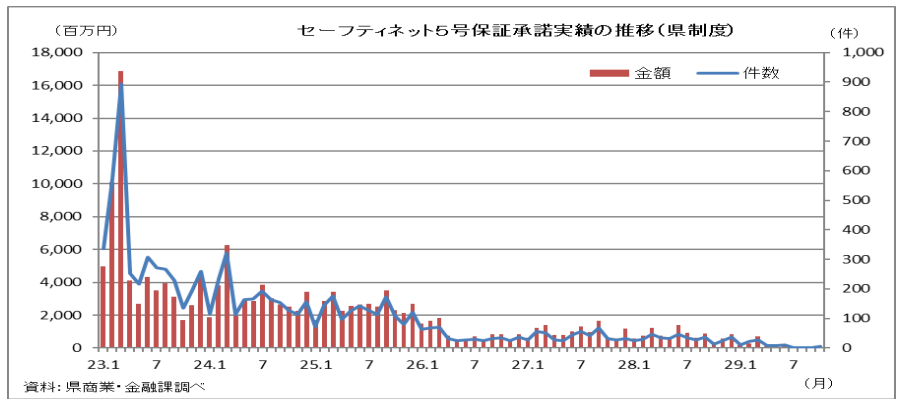
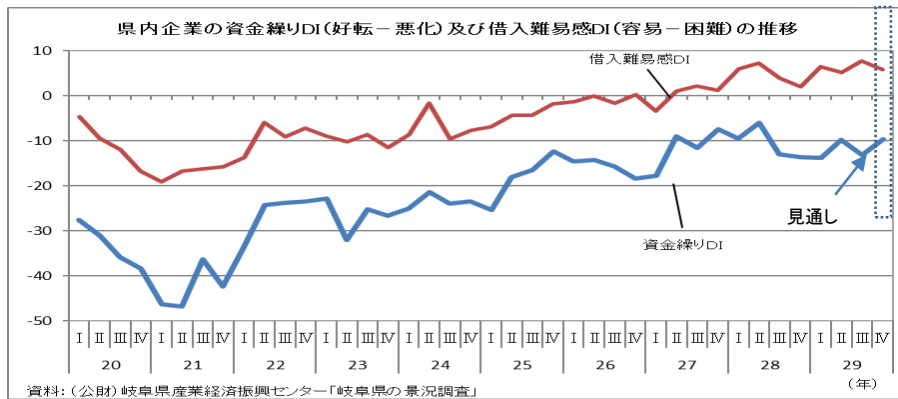
## 現場の動き

- ◆投資は堅調を維持している。
- ◆人手不足感がある。人材募集やつなぎ止めのために賃金が上がっている様子。
- ◆先月と同じく、建設業と運送業、飲食業で人手不足感が慢性化している。
- ◆働き方改革については、中小企業は取り組みにくい状況にある。(以上、金融)



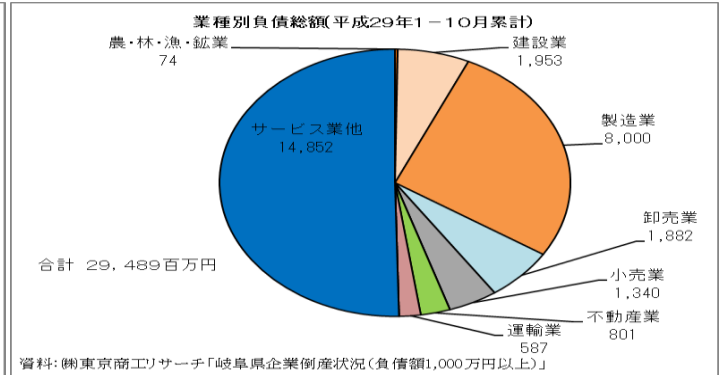
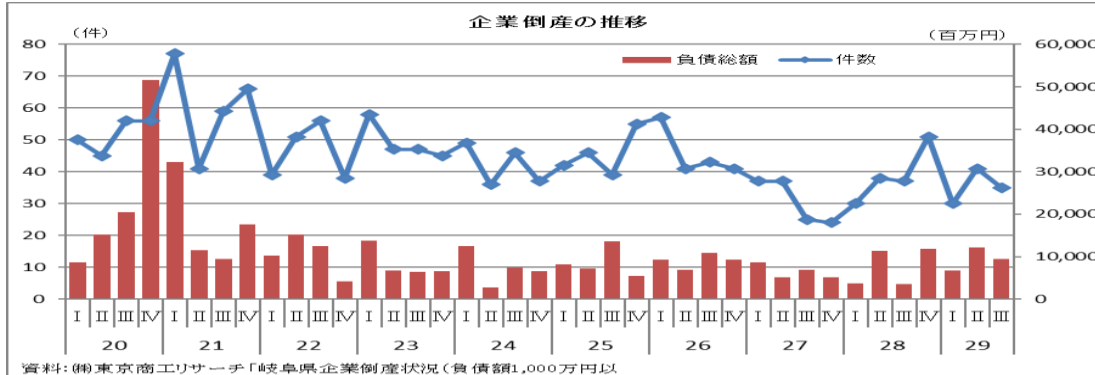
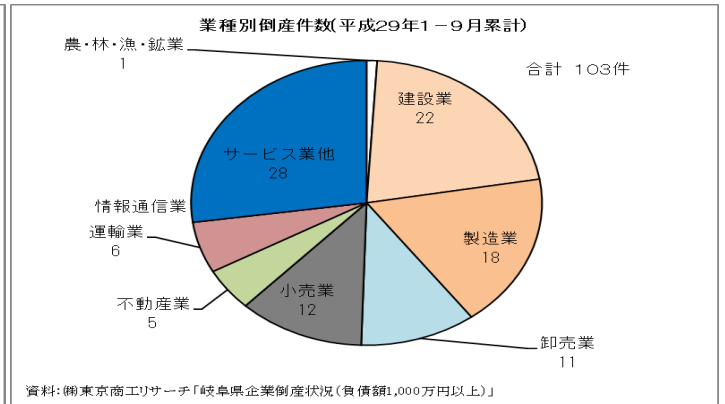
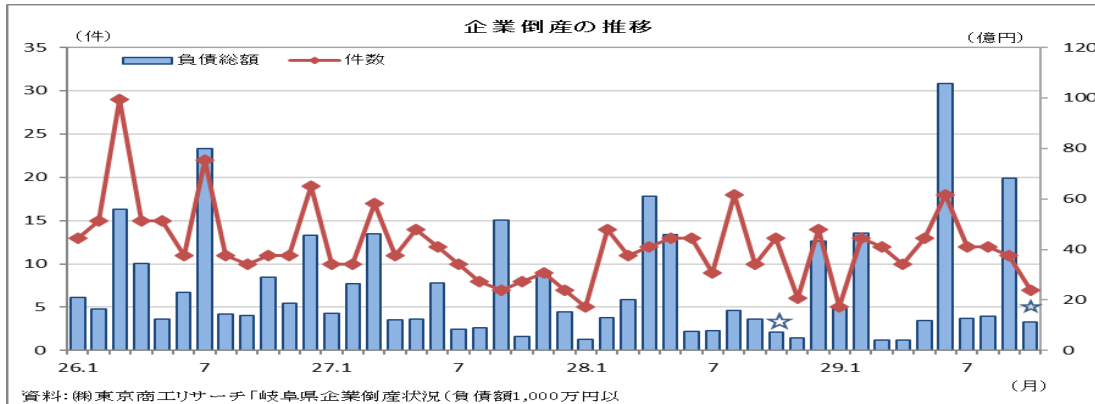
# 資金繰り-2

- 県内企業の平成29年10-12月期の借入難易感DIは、5.8ポイントと前期比1.9ポイント悪化の見通し。一方で、資金繰りDIは、マイナス9.6ポイントと、同3.5ポイント改善する見通し。
- 平成29年7-9月期の主要資金別新規制度融資実績は、前年同期比で経済変動対策資金が61.9%、返済ゆったり資金が28.0%と大きく減少しているのに対し、元気企業育成資金は同10.2%増加しており、前向きな資金用途へのシフトがみられる。
- セーフティネット5号保証承諾実績は、件数が前年同月比58.3%減少し5件。金額についても同50.4%減少し154百万円と、経済状態が落ち着く中で、利用は低調に推移。
- 平成29年7-9月期の事故報告(保証協会付融資3ヶ月以上延滞)状況は、件数が340件で前年同期比プラス16.4%と増加。一方金額は2,656百万円で同7.2%減少となっている。



# 倒産

○10月の倒産件数は前年同月比▲6件の7件。負債総額は同57.3%(4億10百万円)増加し、11億25百万円。件数は減少したが、3億円以上の倒産が2件発生したため、負債総額は増加。  
 ○平成29年7-9期は前年同期比で、件数は2件減少したものの、金額は58億57百万円増加した。



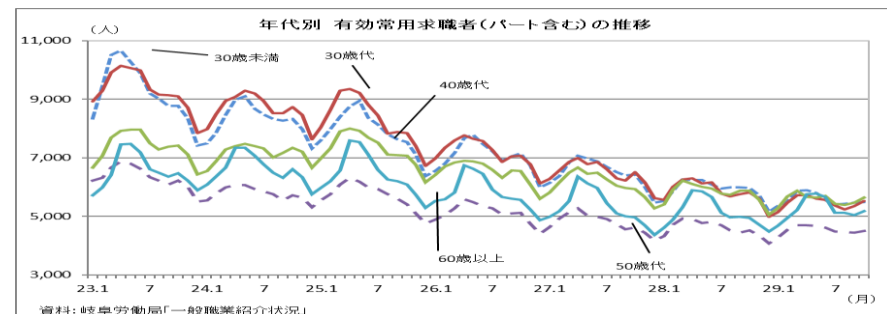
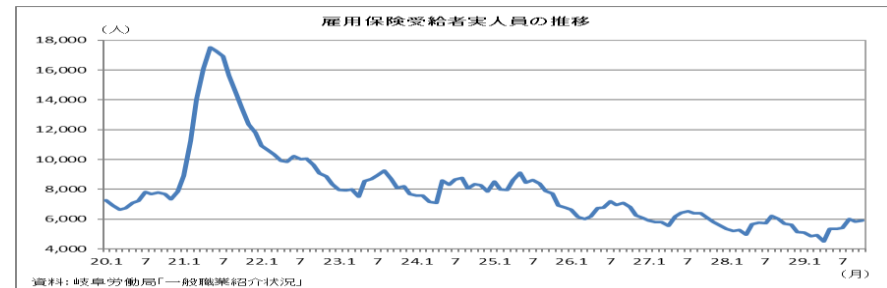
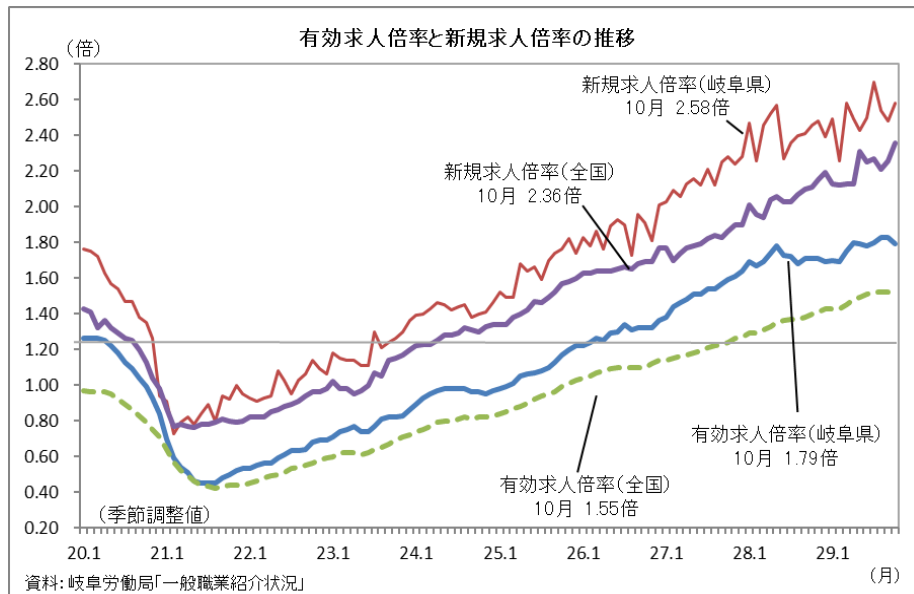
## 専門機関の分析(東京商工リサーチ)

◆中小企業金融円滑化法などの各種政策支援の効果は近時も持続しており、為替、原材料価格、消費動向ともにブレの少ない環境にあるため、倒産が急増する局面は無いと見られる。但し、個人消費の低迷については引き続き楽観視できず、金融面の政策支援策が転換されつつあるため、高齢化が進む零細企業を中心に資金調達が厳しさを増す可能性もある。現状の倒産件数は増加を免れているが、海外情勢など外的要因が加わり、实体经济や各種政策のバランスを崩せば全般的な景気後退・信用収縮が急加速する懸念は拭えない。

# 雇用

- 10月の有効求人倍率は1.79倍と前月比で0.04ポイント減少。全国で8番目の高水準。
- 10月の新規求人倍率は2.58倍と前月より0.10ポイント増加した。

- 10月の雇用保険受給者人員は前年同月比3.4%増加。52ヶ月ぶりに上昇に転じた。
- 年代別有効常用求職者では、60歳以上が同4.5%増加し、5ヶ月連続で増加。



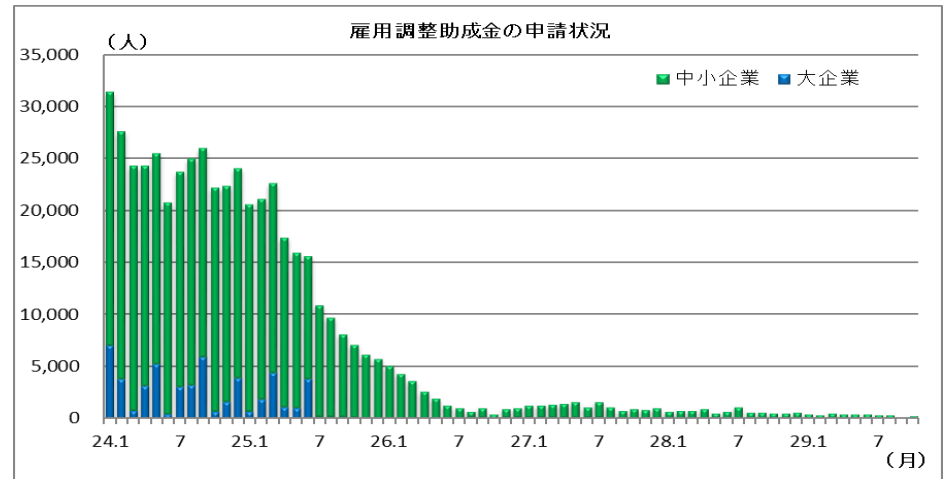
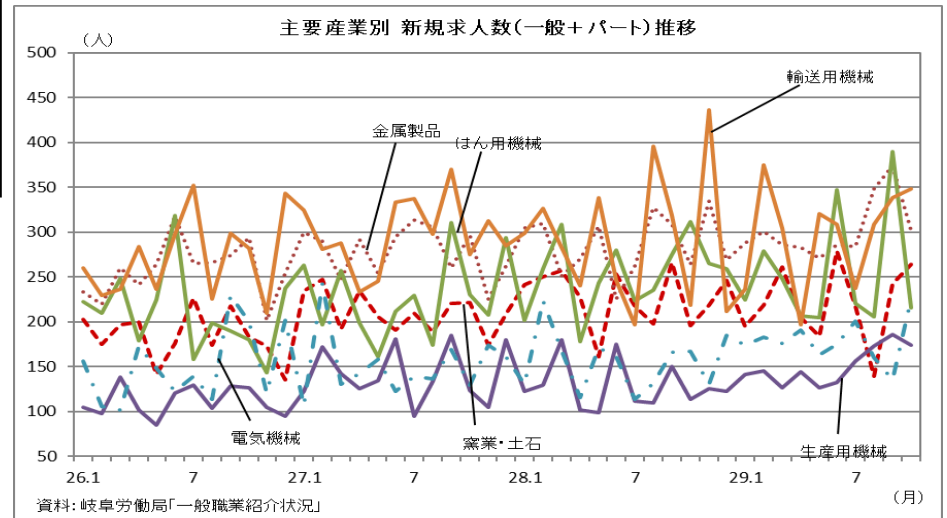
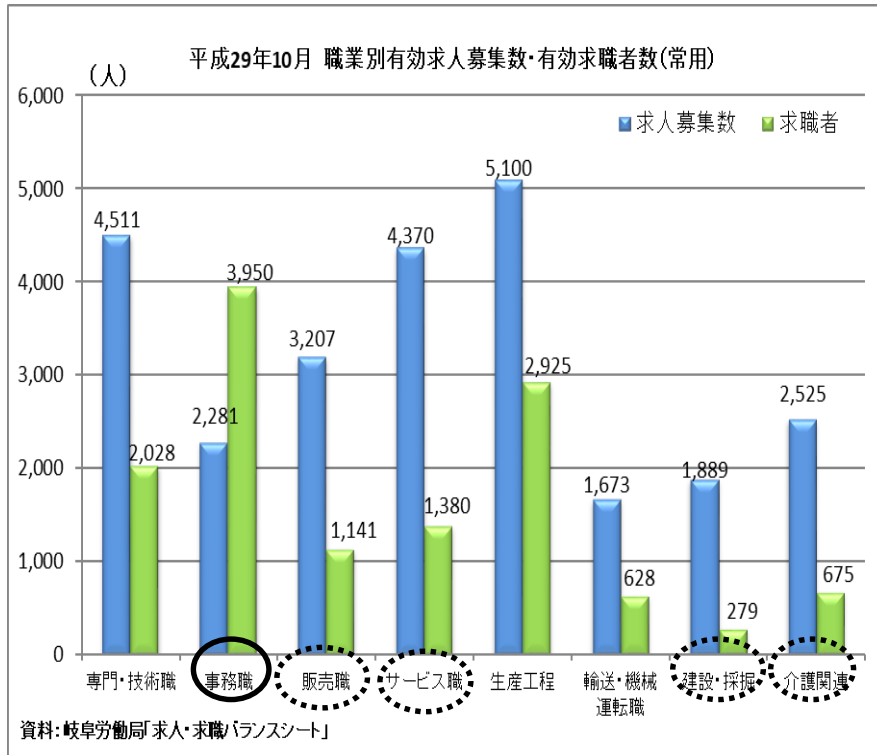
## 現場の動き

- ◆人手不足が続いており、派遣社員で穴埋めをしているが、追いつかないので、外国人実習生4名を受け入れた。人手不足がバブル経済の時期に近づいている感がある。(輸送用機械)
- ◆来春については、新卒者を5名程採用したいと考えていたが、内定者はおらず大変厳しい状況。(金属製品)
- ◆人手不足で、部品調達に影響が出ている大手メーカーもある。生産計画も見直している様子。(生産用機械)
- ◆人手不足が慢性化している。ベトナムからの研修生に頼っている状況。(紙業)
- ◆仕事はあるが、人は足りない。良い人材であれば採用したいが問い合わせが全くない。(林業)
- ◆年末にかけて人手が必要になるが、欲しい人数が集まらないうえ、辞める人もいるため厳しい。(大型商業施設)

# 雇 用(職業別)

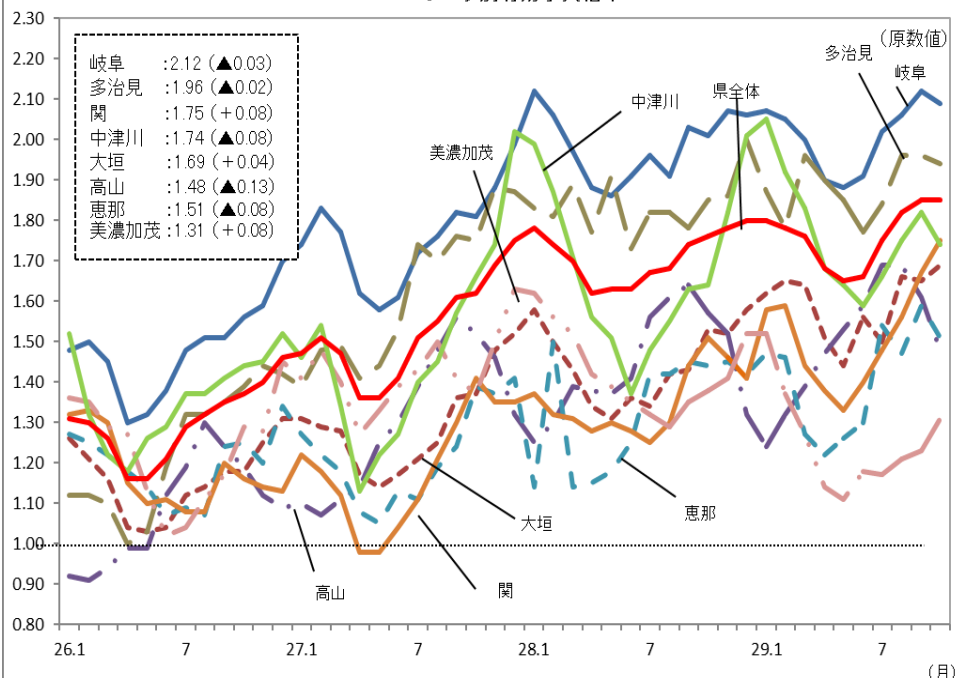
- 各分野において人手不足の状態。特に建設・採掘の求人倍率約6.8倍や、介護関連の求人倍率3.7倍など、専門人材の不足が引き続き顕著になっている。
- また、サービス職3.2倍、販売職2.8倍などサービス産業においても人手不足は深刻。
- 一方で、事務職の求人倍率は0.6倍に留まり、求職者のニーズと、求人側のニーズのミスマッチが続いている。

- 10月の主要産業の新規求人数は、前年同月比で輸送用機械が59.6%、生産用機械が54.0%、電気機械と窯業・土石が34.7%とそれぞれ大幅に増加。各業種において、求人が大幅に増え人材確保が活発になっていることが伺える。



# 雇用(地域別)

ハローワーク別有効求人倍率



注1: 大垣所分は揖斐出張所を含む 注2: 平成21年4月以降の関所分は岐阜八幡出張所を含む  
資料: 岐阜労働局「一般職業紹介状況」

○10月のハローワーク別有効求人倍率は、関、大垣、美濃加茂が上昇し、それ以外の地域は下落。特に高山は前月比0.13ポイント下落しており、下落幅が大きい。

## 現場の動き(先月比)

### <ハローワーク岐阜>

- ◆求人者数、求職者ともに減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

### <ハローワーク大垣>

- ◆求人者数は横ばい、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数はやや減少。

### <ハローワーク多治見>

- ◆求人者数は減少、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数はやや減少。

### <ハローワーク高山>

- ◆求人者数、求職者数ともに横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

### <ハローワーク恵那>

- ◆求人者数は横ばい、求職者数はやや減少。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。

### <ハローワーク関>

- ◆求人者数はやや減少、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

### <ハローワーク美濃加茂>

- ◆求人者数、求職者数ともにやや増加。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

### <ハローワーク中津川>

- ◆求人者数は増加、求職者数はやや減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

### <窓口の様子> ※前月比

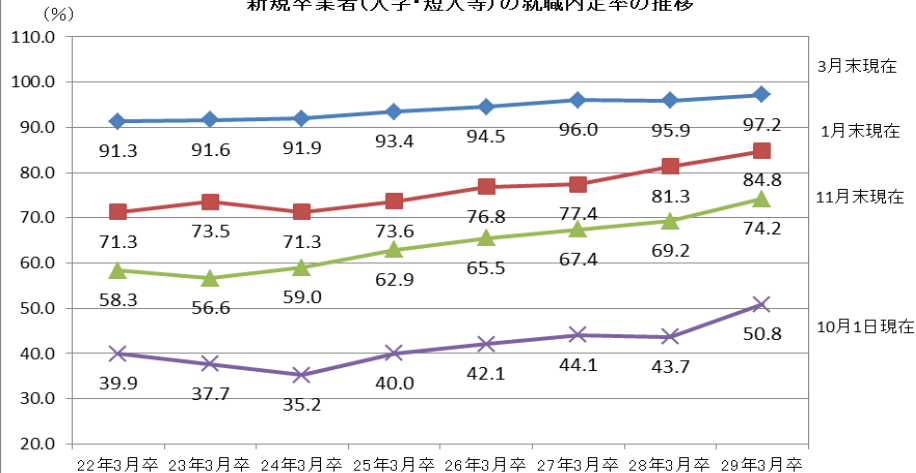
- ◆高山と美濃加茂の窓口は前月並み。
- ◆そのほかの窓口は前月よりやや空いている。



# 雇 用(大学・短大新卒者の就職)

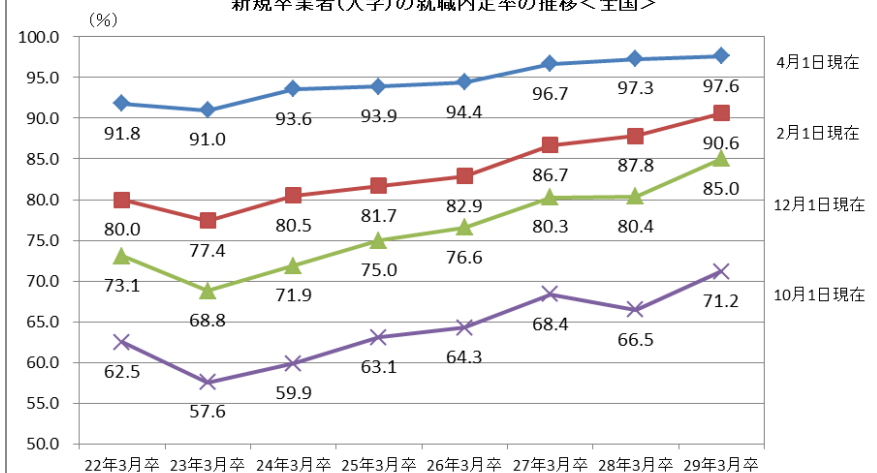
○3月末時点の大学・短大卒業者(平成29年3月卒業)の就職内定率は、前年比1.3ポイント増の97.2%となり、直近8年で最も高い内定率となる。

新規卒業者(大学・短大等)の就職内定率の推移



資料: 岐阜労働局「新規大学等者の就職状況」

新規卒業者(大学)の就職内定率の推移<全国>



資料: 厚生労働省「大学等卒業予定者の就職状況調査」

## 現場の動き(平成30年3月卒の動きなど)

### <18年卒就職活動の総括>

- ◆企業は人手不足感の高まりから採用意欲を前年よりもさらに高め採用に臨む一方で、学生は業界研究やインターンシップを通じて働くことに関してある程度イメージを持って就職活動に臨む傾向にあった。
- ◆企業はエントリーした学生とすぐに接触し、選考までハイペースで進捗。
- ◆学生は前年よりも「売り手市場」であることを早くから感じ取り、大手企業を志向する割合が増加。
- ◆また、「働き方改革」などの労働問題が多く取り上げられる中で、労働環境の整備や、福利厚生が充実している企業を志向する学生が増加。(以上、マイナビ「2017年度新卒採用就職戦線総括」より抜粋)

### <大学へのヒアリング>

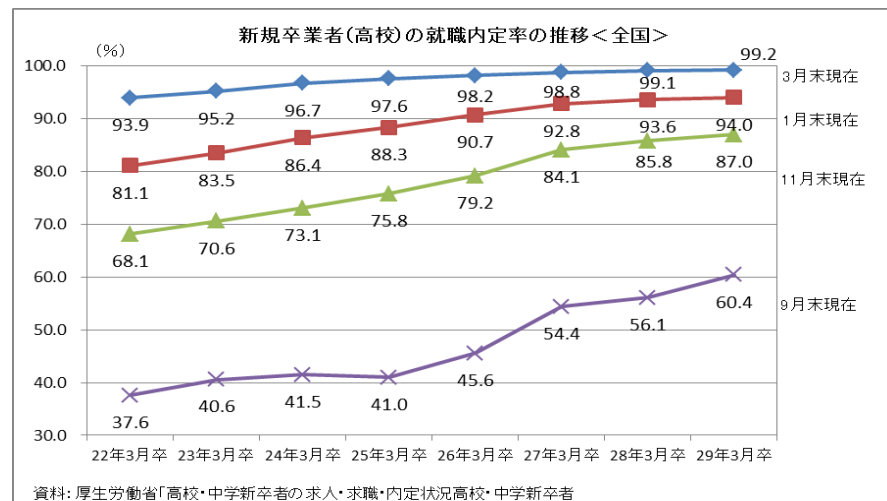
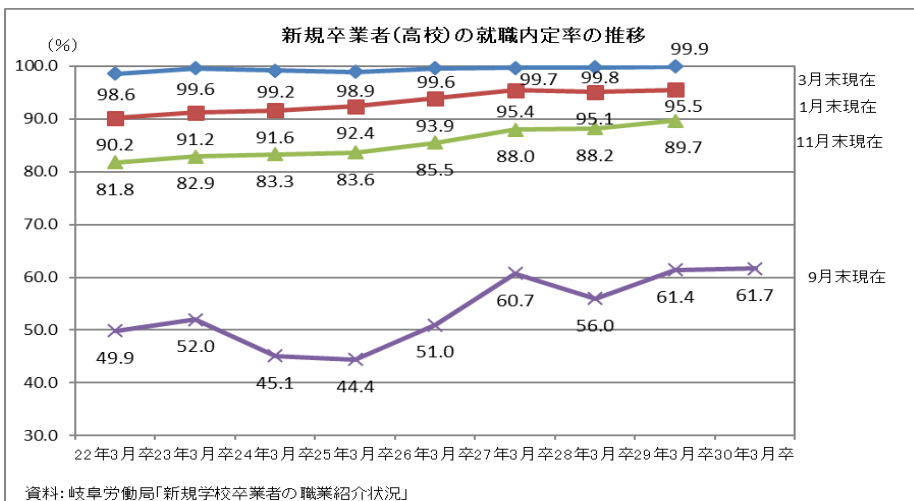
- ◆18卒生の就職先はほぼ決まっているという認識。(県内大学)
- ◆18卒生のうち就職が決まっていない学生に対して継続的に個別相談を行っている。(県内大学)
- ◆18卒生の11月末時点内定率は92.9%。前月より2.5%上昇。(愛知県内の工業大学)
- ◆18卒生の10月末時点内定率は85%。決まっていない学生も12月18日頃の卒論に手一杯。(愛知県内大学)

# 雇 用(高校新卒者の就職)

○29年9月末時点の高校卒業者(平成30年3月卒業)就職内定率は、前年比0.3ポイント増加し61.7%となり、直近9年間の9月末時点の内定率では最も高い値となっている。

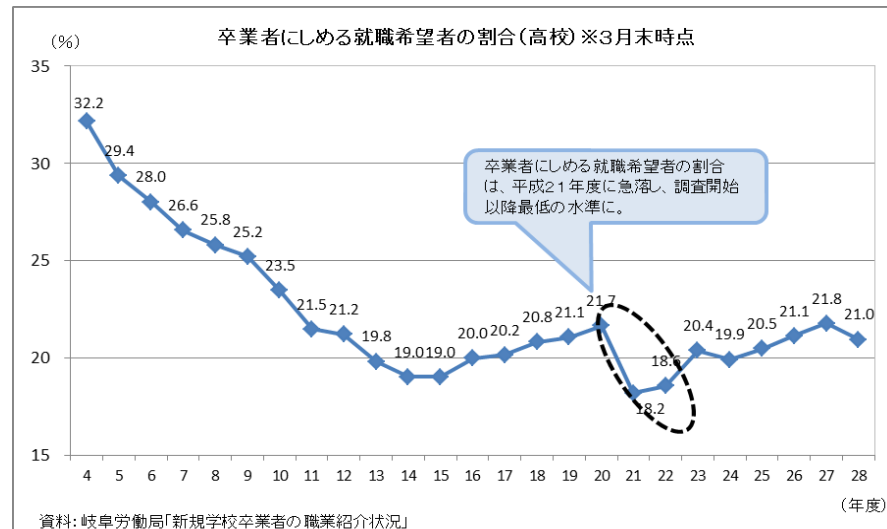
○全国の就職内定率は現在算定中。

○平成28年度卒業者における就職希望者の割合は、4期ぶりに低下した。



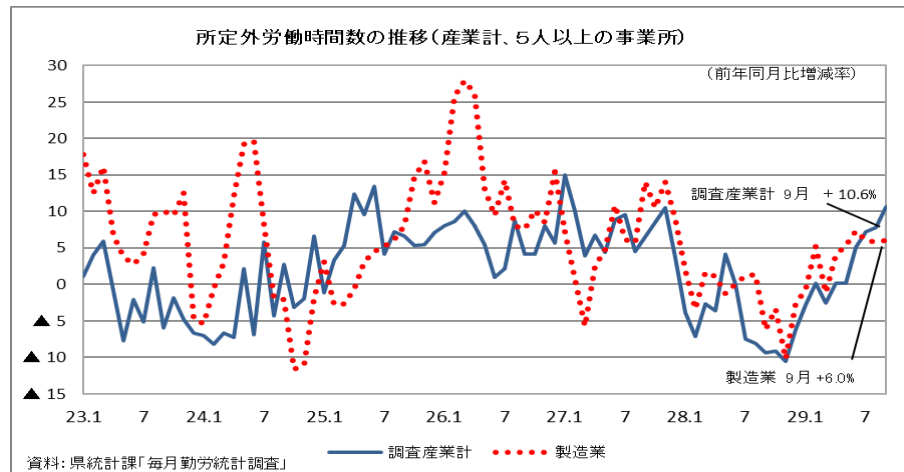
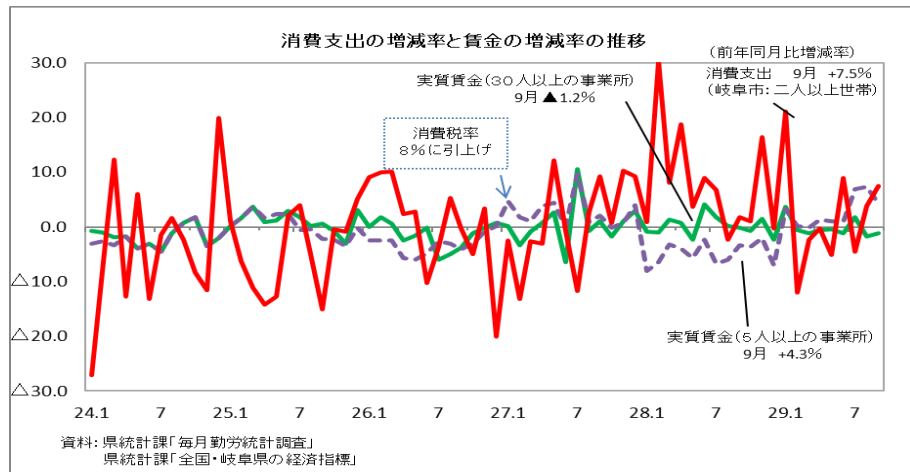
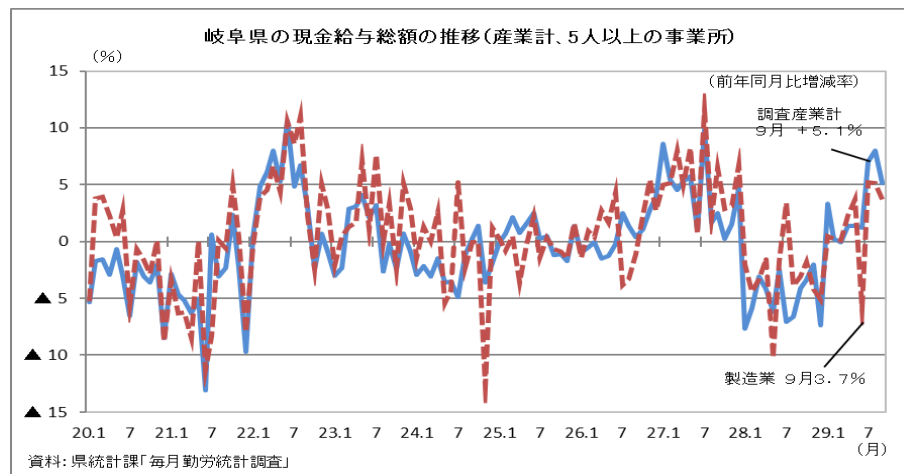
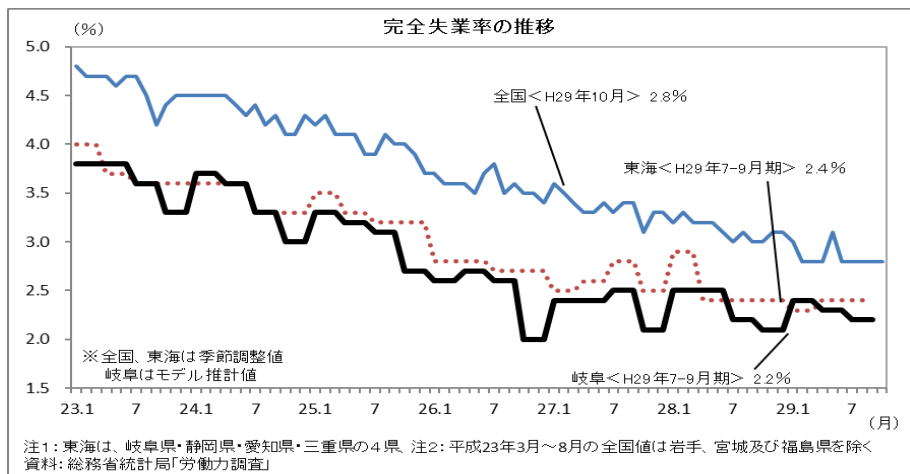
## 現場の動き(H30.3卒の求人状況)

- <ハローワーク岐阜> 求人は増加。
- <ハローワーク大垣> 求人は増加。
- <ハローワーク多治見> 求人は増加。
- <ハローワーク高山> 求人はやや増加。
- <ハローワーク恵那> 求人はやや増加。
- <ハローワーク関> 求人は増加。
- <ハローワーク美濃加茂> 求人は横ばい。
- <ハローワーク中津川> 求人は減少。



# 雇 用(完全失業率等)

- 全国の10月の完全失業率は2.8%と前月比横ばい。岐阜県の平成29年7-9月期の完全失業率は2.2%と前期比で0.1低下しており、全国及び東海地方の平均よりも低位で推移している。
- 9月の岐阜県の現金給与総額は、前年同月比5.1%増加、製造業で3.7%と堅調に推移。
- 9月の賃金増減率は、5人以上の事業所は前年同月比4.3%増加し6ヶ月連続で増加。消費支出については同7.5%増加と2ヶ月連続で増加しており、賃金の上昇と消費の持ち直しが伺える。
- 9月の所定外労働時間数は前年同月比10.6%増加。製造業においては6.0%増加した。



# ＜経済・雇用の現状（総括）＞

- 製造業は、一部の業種で鉱工業生産指数に弱含みがみられるものの、全体的には底堅い推移がみられる。自動車産業を中心に好調を示すヒアリングも多くみられており、全体としては上向きの動きが継続している。
- 地場産業は、海外製品等との競合、国内需要の低迷、原材料費高騰による収益の圧迫など厳しい状況が継続しているが、一部には持ち直しの動きも見られる。
- 設備投資は、設備投資意欲DIIには改善がみられ、国内の金属工作機械受注額は堅調に推移するなど、業績が好調な企業を中心に設備投資意欲が高まっている。一方で地場産業や中小企業には設備投資に後ろ向きな姿勢も見られる。
- 個人消費は、新車販売台数(軽自動車含む)には不正検査問題によるとみられる落ち込みがみられるが、小売各社へのヒアリングからは好調さが伺える。また、現金給与総額や実質賃金、消費支出は改善しており、緩やかな持ち直しの動きが継続している。
- 観光は、前年と比較し、休日の日数が1日少なかったことや、週末に台風が接近するなど1ヶ月を通し天候に恵まれず、入込観光客数が前年と比較し、伸び悩んだ。
- 企業の資金繰りは、借入難易感DIIは金融機関の積極的な融資姿勢から、借入しやすい状況が継続。一方で、資金繰りDIIは悪化しており、事故報告件数が前年同月比で4ヶ月連続で増加するなど、小規模企業には厳しい状況が継続。
- 雇用面は、完全失業率、有効求人倍率、学生就職内定率等の関連指標は、良好に推移しており、総じて県内の雇用情勢は引き続き改善している。但し、大手志向の強まりや、求人と求職のミスマッチ等により、多くの中小企業では採用難に陥っており、人手不足が慢性化しているとともに、人件費の高まりが収益を圧迫し始めている。